

2. 事業の概要と成果	
(1) 上位目標の達成度	アジュマニ県における南スーダン難民及びホストコミュニティが生活する地域の安定化及び社会開発の促進のため、社会経済的に脆弱な難民とホストコミュニティ住民を対象に、経済的自立を支援する職業訓練と開業支援を行い、裨益者が収入を得るまでになった。
(2) 事業内容	<裨益者の選定> 事業期間 12 ヶ月間で、社会経済的に脆弱な次の裨益者 40 名を選定し、事業計画の通り以下の活動 (1) ~ (3) を実施することで職業訓練を行い、開業を支援した (補足資料 1: WPP, 進捗管理表, WBS)。 * 南スーダン難民 20 名 (20 世帯。本人除く家族人数 154 名)、ホストコミュニティ住民 20 名 (20 世帯。同 141 名) * 男女比 女性 19 名 : 男性 21 名 * 訓練分野 洋裁 20 名 : 木工大工 20 名 * 年齢(選定時) 17 歳 ~ 37 歳 (平均 24 歳) * 難民は、PSNs (Persons with Special Needs) と援助機関が定義する「特別な支援が必要な世帯」を主な対象とした。 * 訓練開始時、裨益者 42 名 (難民、ホストコミュニティ各 21 名) を受け入れたが 2 名が訓練修了不可となった (1 名は既往症再発によりもので、もう 1 名は家族の事情により本居住区を離れた為)。 * 選定時、本居住区内の民族性を考慮してマイノリティーの民族出身者 10 名も対象にした。 (1) BHN(人間の基本的ニーズ) 支援活動 : 1-1. 裨益者が訓練に専念できる環境をつくるため、職業訓練施設 (以下、訓練施設) での訓練期間中、給食を提供した。 1-2. また訓練期間中に、裨益世帯が BHN を満たして生活できるように生活費クーポンを各世帯へ支給した。本居住区内で当会とクーポン使用の契約を結ぶ日用品店を裨益者が訪れ、必要な物資と引き換えた。 加えて裨益世帯の児童が初等教育を受け教育面で BHN を満たせるよう小学校に支払う費用や制服購入費等の教育費を補助した。 (2) 能力向上支援 (職業訓練) : 2-1. 難民居住区内のサイト A (敷地面積 3,000 平米) に、次の仮設の職業訓練施設を設置した。 ①木工大工訓練用施設 (119 平米) * ②洋裁訓練用施設 (138 平米) * ③仮設フェンス (35 x 50m 長) ④仮設トイレ (24 平米 = 訓練生用トイレ 14 平米 + 職員用トイレ 10 平米) ⑤大工作業用仮設屋根 (25 平米) * 施設利用方法に関して、木工大工と洋裁それぞれの訓練資機材配置のスペースを考慮して、当初の予定から施設を入れ替えて使用した。 (また当初計画に加えて、事業を円滑に行うため自己資金により警備員小屋、調理小屋、事務施設、大工作業屋根拡張部分を別途建設済) 2-2. 洋裁/木工大工に必要な訓練用資機材を調達・搬入した後、2-3. 本居住区・ホストコミュニティから訓練施設に通う裨益者に、8 ヶ月間、平日フルタイム (1 日 6 時間半、週 5 日間) で職業訓練を行った。洋裁専門講師は、当会の過去 N 連事業の元裨益者で、同地域在住の自

	立している元子ども兵から1名選定した。訓練では専門講師が一部理論の授業を行いながら、9割以上を実技訓練に当て、裨益者が実践的な商品制作の技術を習得した。 (3) 収入向上支援(開業支援): ・裨益者が開業準備を経て開業し、収入を得るまでの支援を行った。 3-1. 開業準備として、ビジネス計画の立案指導を訓練終盤の2ヶ月間、職業訓練と並行して訓練施設にて実施した。講師によるビジネス講習の元、洋裁/木工大工ともに、裨益者がビジネス計画を策定した。 3-2. 開業に必要な資機材の調達・提供と共に、本居住区内のサイトBに2店舗(洋裁・木工大工各1店舗)、本居住区に隣接するサイトCに2店舗(同上)の計4店舗を設置し、裨益者4グループが店舗を構える環境を整備した。 3-3. 事業期間終了までの最後の2ヶ月半、ビジネス及び店舗運営の個別指導を実施し、開設店舗を当会の職員や専門講師等が訪問し、グループにおける店舗運営の役割分担、ルールの制定等のサポート、収入を得られるまでの個別指導を行った。
(3) 達成された成果	上位目標「アジュマニ県における南スーダン難民及びホストコミュニティの最貧困層が収入源を確保し、経済的に自立することで、地域の安定化及び社会開発が促進される」に向け、社会経済的に脆弱な本事業の裨益者が職業訓練及び開業支援を受けて収入を得られるようになった。また本事業は以下の「持続可能な開発目標(SDGs)」に貢献している。 ◆目標10【国内および国家間の不平等を是正する】内のターゲット10.2「2030年までに、年齢、性別、障害、人種、民族、出自、宗教、あるいは経済的地位その他の状況に関わりなく、すべての人々のエンパワーメント、および社会的、経済的、および政治的な包含を促進する」に関して、出身国を離れ脆弱な立場に置かれている難民へエンパワーメントを行った。 ◆目標1【あらゆる場所で、あらゆる形態の貧困に終止符を打つ】内のターゲット1.5「2030年までに、貧困層や脆弱な立場にある人々のレジリエンスを構築し、気候変動に関連する極端な気象現象やその他の経済、社会、環境的打撃や災害に対するリスク度合いや脆弱性を軽減する」に関して、同国内での経済格差を抱え、難民を受け入れる北部地域のホストコミュニティの社会開発を促進している。 (1) ~ (3) の活動による成果は下記の通り。 (1) BHN(人間の基本的ニーズ)支援活動: 職業訓練期間中、訓練施設での給食提供と生活費クーポン等によるBHNを満たす支援を実施することにより、裨益者が8ヶ月間、平日フルタイムの職業訓練に専念することができた。 (2) 能力向上支援(職業訓練): 訓練施設の設置と職業訓練により洋裁/木工大工と共に、40名の裨益者が2018年3月後半から2018年11月後半まで8ヶ月間の訓練を受け、必要な技術と知識を身につけた。 洋裁では、実技と理論を通して、各種道具の役割、足踏みミシンの使い方、テープメジャーを使った採寸方法、生地の種類や性質の違い、生地必要量の計算方法、裁断方法等を学んだ。またミシンを使って衣

	服を縫製する際の襟や袖、ファスナーの付け方等、必要な部位の作り方を学んだ。これにより学校用制服、女性用スカート、アフリカンドレス、男性用シャツ、トラウザー、オーバーオール等の制作技術を習得した。また洋服や生地に刺繍を施す服飾デザイン用電動機械の部位の名称、機械の立ち上げ方、刺繍糸や針の取り付け方、刺繍スピードの調整方法等を学びながら、様々な刺繍パターンを習得した。 木工大工では実技と理論を通して、各種道具や機械の名称や使い方、木材の種類、木材の切断、繋ぎ方、接着方法等を学んだ。また発電機を用い、持ち運びができる木材切断用の電動機械、電動ドリル、サンドペーパーをかける電動機械等の使い方を学んだ。加えて大型機械の導入により、木材の切断、木材の厚さの調整、木材接続のための穴を削る等の加工法、木材彫刻を学んだ。これにより各種椅子（長椅子、事務用椅子、折りたたみ椅子）や学校用机、テーブルセットといった基本的な家具から、応用のダイニングテーブルや各サイズのベッド、棺、木製ドア・窓等の家具の制作技術を習得した。また建設に必要な屋根の設置方法等の大工技術も習得した。 なお、訓練開始前と後で上達レベルを比較するために知識・技術の能力試験を実施した。訓練開始前の試験では洋裁 0%、木工大工 0%～8%のスコアと知識・技術レベルはゼロに近い状態であった。その後、訓練終了時の試験では、全員が当初基準としていたスコア 70%を超え、洋裁クラスが平均 81%、木工大工クラスが平均 86%のスコアを取得し、市場価値を持つ商品を生産する技術・知識を習得した。 （３）収入向上支援（開業支援）： ビジネス講習では裨益者が顧客への対応方法、収支の記録方法、利益の計算方法等を学び、開業に必要なビジネス計画を策定した。その後、ビジネスを開始した裨益者へ個別訪問や指導を行うことで、裨益者 38 名が難民やホストコミュニティを顧客にして商品の制作・販売を開始し、「開業して収入を得る」という本事業期間の最終的な目標に達した。収入額については、洋服や家具の需要があるクリスマス前に開業したタイミングもあるが、平均で月約 16 万ウガンダシリングの収入を得ることができた。今後、家族の事情により仕事を始めることができなかった難民の裨益者 2 名を含め、計 40 名に対して下記（４）に記載のように引き続きフォローアップを行う。
（４）持続発展性	◆本事業終了後、「成果を測る指標」として半年以内で一人当たり月 10 万ウガンダシリング、2 年後には 18 万ウガンダシリングの収入を目指しており、裨益者の収入が向上し安定するよう、引き続き当会職員がフォローアップを行う。 ◆裨益者が開業する際、大規模な機材ではなく、裨益者が維持管理可能な最小限の機材供与に留め、運営コストも抑えリスクを低減している。これに加えて、上述のようにフォローアップを行うことで裨益者の収入を向上、安定化させ、ビジネス運営の持続性を確保していく。 ◆本居住区とホストコミュニティでの木工大工や洋裁を学べる場所は限られており、本事業で設置した職業訓練施設を引き続き活用しながら、平成 30 年度の N 連資金を用いて、木工大工と洋裁の職業訓練を実施している。また今後、本事業の裨益者から近隣住民が技術を習得し、人材育成が行われる、もしくは雇用が生み出され、地域の生活の向上や社会開発につながることを期待される。